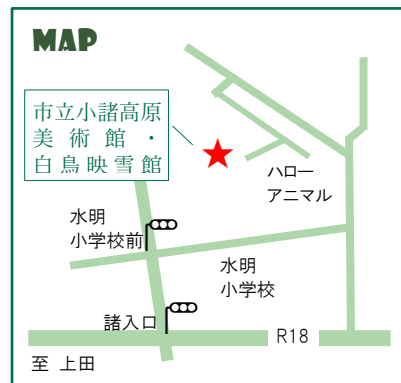


こ み ち

本の小途

Vol. 7
2021.冬号

特集
星空への招待



今年も良い本との出会いがあります。本途人舎は、人と本をつなげる活動に今年もまい進して参ります。

「人類は小さな球の上で眠り起きそして働き ときどき火星に仲間を欲しがったりする」(谷川俊太郎「二十億光年の孤独」より)
この詩は合唱曲にもなっているの、口ずさめる人も多いのではないのでしょうか。谷川さんは『詩を書くということー日常と宇宙と』の中で、この詩を作った年の頃のことについて、自分の座標を決めたという思いがとて強く、その思いが「宇宙」というレベルまで行きつきましたと語られています。
座標とは、自身の原点、物差し、基準といった意味を含みますが、自分の座標を決める時に、本が役に立つことがあるのではないのでしょうか。
今年も良い本との出会いがあります。本途人舎は、人と本をつなげる活動に今年もまい進して参ります。

＝表紙写真＝「ハヶ岳山麓を這うカノープス」山際の赤い星がカノープス。開けた場所で観測できる。(2019.1.31撮影 撮影者：荻原茂之さん)『自選谷川俊太郎詩集』(谷川俊太郎/岩波書店/2013.1) P.17より「詩を書くということ」(谷川俊太郎/PHP研究所/2014.6)

～本途人舎よりお知らせ～



上：オリジナル地図を作っている様子(10月24日) 下：民話「祇園のはなし」を朗読していただいた朗読「わ」の会の皆さん(12月5日)



「読む町 聞く町 魅せる町 プロジェクト」を開催しました
十月に与良町をまち歩きをしながら地域の歴史について学び、それぞれがテーマを見つけてオリジナルの地図にする「小諸の魅力を見つけて見!!歩いて、学んで、ハイ地図」を、十二月に「こもろの民話 わたしたちの民話」として昔から伝わる小諸の民話の朗読や語りを開催しました。初めて知ることが多く、様々な角度から小諸を知ることが出来たイベントとなりました。

香りをヒントに本と出会おう・第2弾開催します!

香りをヒントにセルフケア

昨年9月に行い好評だった「香りをヒントに本と出会おう」がパワーアップ。今回のテーマは“セルフケア”。
香りと本とヨガで元気になりましょう!

延期となりました。新しい日程は本途人舎HPをご覧ください。

参加費 1,500円 / 募集人数 20人
内容 嗅覚反応分析を使い体調チェック
おすすめ本の紹介、ヨガミニレッスン

申込&問い合わせ
本途人舎: hontohitosh@honhito.com まで

今月の元標 (第7合目)



ぼくは、自然のままの雑木が伸び放題に伸びた北国街道側に目をやった。(中略) 浅間おろしが、つめたくオーバーを刺しとおす。どこかにともしびのひとつもあれば、それだけで救われそうな寒さだった。

「追分旅愁」(『信州の旅情』) P.170 より
(龍野咲人 著 / 信濃路 / 昭和49年)

詩人。著書『火山灰の道』『信州の詩旅』ほか、小諸にある水明小学校・美南ヶ丘小学校・芦原中学校・小諸高等学校の校歌の作詩者。上田生まれ・小諸市石峠に住居があった。

「元標」とは浅間山を登る人のための道しるべのことをいい、小諸八幡神社を起点としています。

編集後記

今月号の表紙は街明かりとりゅうこつ座の一等星「カノープス」の写真です。写真を提供していただいた荻原さん曰く、カノープスは、中国では「南極老人星」と呼ばれ「一目見ると寿命がのびる」という言い伝えがあるそうです。空を見上げる理由がまたひとつ増えました。(Y&K)

12月20日(日)ほんのひととき 参加者5名

クリスマスも近いことから、聖書がわかりやすく解説されている本や、ある高校で飼われている犬と生徒にまつわる物語、アイヌ民族がベースになっている漫画など様々なジャンルの本が並びました。

「ジェンダー」をテーマに探究学習をしているという岩村田高校生H君を無理矢理引き込んで(笑)フレッシュな空気の中でおすすめ本を紹介し合いました

男女の歴史は聖書でいうとアダムとイヴに遡り、ジェンダーフリーにはまだまだ壁があるよね～



『もの食う人びと』 辺見庸/著 共同通信社 など
本と紹介文のみの参加者もいたよ

好きな本を語りた方、聞きたい方大募集!
一緒に“ほんのひととき”を過ごしませんか?

次回のほんのひととき
1/17、2/21、3/21 いずれも午後3時～5時

人の数だけ本棚がある。

十じゅうに人 十とだな棚

今月は

めぐちゃんの本棚



「ずっと読み続けたい本、心を癒してくれる本を集めた心の栄養補給ステーション」

本棚を募集しています

このコーナーでは皆様のご自宅の本棚を募集しています。デジカメ、携帯カメラで撮った本棚の写真にお名前(P.N可)を添えて下記のメールアドレスまでご応募下さい。応募先 hontohitosh@honhito.com (件名「本棚コーナー宛」)

星空への招待

晴天率が高く標高が高い小諸。晴れた夜に街灯が無い場所に行く
とどこでも天然のプラネタリウムに大変身！
あなたがしたい、知りたい 星空の本をご案内！



高峰からの星空 写真提供：萩原茂之さん



『星座の図鑑』
沼澤茂美、脇屋奈々代／著
誠文堂新光社



星座が見たい！

『星は友だち！はじめよう星空観察』
永田美絵／著 NHK出版



初心者必見！

月を知りたい！



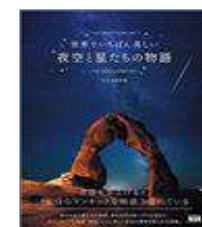
『世界でいちばん素敵な月の教室』
浦智史／監修 三オブックス

もっと知りたい宇宙の神秘



『佐藤勝彦の眠れなくなる宇宙入門』
佐藤勝彦／著 宝島社

写真で世界各地の星空をあなたに



『世界でいちばん美しい夜空と星たちの物語』
MdN編集部／編
エムディエヌコーポレーション



『グリニッジ天文台が選んだ絶景天体写真』
サー・パトリック・ムーア／監修
パイインターナショナル

『今夜、流れ星を見るために』
星空さんば編集部／編
誠文堂新光社



流れ星が見たい！

『体感する宇宙』
竹内薫／著 KADOKAWA



宇宙を体感したい！

物語で楽しむ星空



『天を掃け』
黒川裕子／著 講談社
短距離選手として
囁望されながら挫折した駿馬。小惑星
探索に挑むすばると出会い変わって
いく。
少年たちの再生の物語。



『プラネタリウムのふたご』
いしいしんじ／著 講談社
星の见えない町のプラネタリウムで
拾われた双子。成長し別々の人生を
歩み始める。運命に導かれて…。

本と人を紹介するコーナー

ほんととひと

今号の特集は星。小諸市高原美術館主催の「小諸市星空観望会」に参加し、観望会の講師をされている天文同好会・流天の皆さんにお話を聞いてきました。

Q 同好会の発足の経緯と、活動について教えてください。

流天（以下R）の会の結成は三十五年ほど前。高校の地学クラブの仲間と、卒業後も何か続けていけないかと始めたのがキッカケでした。その後しばらくは、結婚・子育てなどで開店休業状態でしたが、ひと段落ついた頃に、小諸高原美術館から星を見る会（観望会）のお話をいただいたのを機に活動を再開しました。

Q 観望会はどんな風に行われていますか？

R 美術館というロケーションの良い場所で、四季折々の星空を眺める楽しみを、大勢の人にも味わってもらえることを目的としています。日程は公民館報こもろで広報しています。一応、申し込み等はありません。



2020年12月に行われた観望会。子ども達も興味津々。

ますが、当日参加も大歓迎です。開催は年四回ほどで、観望の内容は、夏休みの自由研究のテーマやベルセウス座流星群、ふたご座流星群など季節に合わせて決めています。当日は機材の準備や運営などを、流天のメンバーを中心に、佐久地域の星が好きなお仲間にも応援してもらいながら行っています。望遠鏡の使い方などのアドバイスなどもしています。

Q 小諸高原美術館で見る星空は素晴らしいですが、他にも小諸市内で星空を楽しめるオススメスポットはありますか？

R 小諸に限らず、まず色々な場所から星空を見上げてください。たくさん星が見える場所、街の明かりでほとんど星が見えない場所など様々です。明るいことは安全なことなのですが、それだけでも言い切れないのですが、安全な場所として、小諸高原美術館で見る星空は素晴らしいです。色々なことを考えながら夜空を見てください。小諸のお勧めスポットは、「高峰高原ホテルの駐車場から見ると佐久平の夜景と星空」です。ちょっと遠いですが、ここは街中の明かりから抜け出して、野辺山方面まで見渡せて、天気が良ければその向こうには富士山、そして満天の星空や天の川が見られます。時には雲海も広がったりして仙人にでもなった気分です。もちろん、星を見る時は暗いので子どもだけでは行かない、危険な場所には行かないなど、必ず十分な注意をしてください。

Q 最後にオススメ本を教えてください。

R 「僕たちは、宇宙のことぜんぜんわからない」（ジョージ・チャムダニエル・ホワイトソン著）は、宇宙のことが物理学、宇宙学、量子力学などが物理学、宇宙学、量子力学などの観点から書かれています。とても厚い本ですが、訳がうまいのでとても面白く読み進められます。

『目が慣れてくると、初心者の私でも肉眼で星座をみつけられるようになりました。流天の皆さんありがとうございました。今年の冬は、意識して空を見上げてみたいと思います。』



ダイヤモンド社 2018年

メンバーおすすめの本

紹介人 木内洋子

最近読んで印象に残っている本です。新型コロナウイルス感染症に感染する人が増え続けている現状に、どのように向き合っていけば良いのか迷っていたため、手に取りました。ウイズ・コロナではなく、ビヨンド・コロナ（コロナを超えて）という言葉にホッとしました。コロナと戦うのではなく、コロナを超えて、日常生活を送っていくという覚悟ができました。誰にでも訪れる「死」についても、ただ怖がるのではなく、心安らかに受け入れていくことができるのだと少しですが、穏やかな気持ちになりました。人間の体の持つ、免疫力など、計り知れない力に目を向けていく気持ちになりました。そしてもっと、人間の体の働き、本能を信じてよいのだなと思いました。ぜひ、ご一読ください。



『コロナ時代を生きるヒント』
鎌田實 著
潮出版社（2020年7月）